

第 27 回

どうなる？Jクレジット制度！  
～卒FIT電源等の認証対象化について～

9月19日に開催されたJ-クレジット制度運営委員会において、制度文書の改定について検討がされました。

今回のコラムでは、この改定が検討されているポイントについてご紹介したいと思います。

議題の一つは、卒FIT電源等をJクレジットの認証対象にしてはどうか、という点です。

2019年11月以降、家庭用太陽光等の余剰買取期間が終了した“卒FIT電源”が多く登場します。そうした中、卒FIT電源による自家消費した環境価値あるCO2削減量は、現在のルールだと認証対象とすることができないため、その環境価値が埋没してしまうことが懸念されています。

そのため、“新たに追加的な設備投資を行った場合”に限り、卒FIT電源により自家消費した再生電力をJクレジットの認証対象としてはどうか、という点が検討されています。

通常、J-クレジット制度は導入から2年以内の設備を対象としています。そのため余剰買取制度のような家庭用太陽光は10年ほど前の導入のためJクレジットの対象とはなりません。しかし、今後中長期的な排出削減をしていく中では、再生可能エネルギーの自家消費をいっそう後押しすることが必要不可欠です。そうした観点からも、卒FIT電源であっても自家消費を認証の対象とすることで、自家消費拡大のインセンティブとなり得ると考えられています。

またRE100等の企業レベルでの再生電力の調達ニーズが高まっているため、こうした卒FIT電源のような埋もれた環境価値の活用に着目が集まっています。実際に、卒FIT電源のJクレジット化の問い合わせが数多くあったことから、今回の改定の検討につながっています。

追加的な設備投資としては、自家消費の拡大や電力系統への負荷軽減につながるような設備を対象としています。具体的には、出力制御対応機能付きパワーコンディショナーや蓄電池、電気自動車、貯湯槽付きヒートポンプ等です。こうした設備を導入した場合に、制度が改定されれば、卒FIT電源であっても自家消費分はクレジット化できることとなります。今後、再生環境価値のニーズが高まっていく中、こうした認証対象の拡大については期待が集まります。

またもう一つの議題は、認証対象期間の延長についてです。現在のJクレジット制度では、認証対象期間は8年間となっています。しか

し中長期的な削減を推進していく中、より高性能な先進的な設備等の導入を進める上でも、長期間に渡ってクレジット認証を認めることにより、高性能な設備導入のインセンティブにつながると考えられています。

現在検討されている内容としては、8年が経過した時点でベースライン（比較する導入前の条件（燃料・効率等））の見直しを行い、削減量を算定するというものです。この段階で見直しを行った結果、削減量がある場合は、追加的に8年間で認証対象として延長できることが検討されています。

卒FIT電源の取り扱い、認証対象期間の延長については大きな制度改定ポイントになります。どちらも中長期的な削減目標、脱炭素社会といった時代の潮流に合わせた内容になります。

今後、制度の改定の動向についても着目していただければと思います。

【ソフト支援事業実施機関】

株式会社ウェストボックス

Tel : 052-265-5902 Fax:052-265-5903

E-mail: info@wastebox.net

\*\*\*\*\*  
中部Jクレ コラム バックナンバー  
<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform/column/column.html>